

平成 21 年 2 月号

明るくのびのびと

児童養護施設

筑波愛児園

〒300-4244 茨城県つくば市田中 1781 番地

TEL : 029-867-0432 FAX : 029-867-1839

E-mail : t-aijen@au.wakwak.com

ホームページ : <http://www.e-tsukuba.jp/aijen/>

筑波山では 2 月 21 日～3 月 22 日の間、「筑波山梅まつり」が開催されています。つくばエクスプレスが開通し、筑波山観光に訪れる方もだいぶ増えたということを知っています。



筑波愛児園では 2 月 7 日（土）に、第 3 回 歩け歩け大会を開催しました。園を出発し、道路わきに落ちているゴミを拾いながら歩きました。ケーブルカーを使い山頂まで行き、お弁当を食べて、また愛児園まで歩いて帰ります。体力のある子は、ケーブルカーを使わずに登山・下山してしまいます！！

今年は UBS 証券会社、田中地区青年会、筑波大学社会福祉研究会の愛児園グループの方々がボランティアとして参加して下さいました。子どもたちとの交流を楽しみながらも、ケガ等がないように子どもの安全を見守って頂きました。

歩く会の辛さや楽しさ

僕が、今年の歩く会で思った事は、歩く会という行事は、とてつもなく 辛——いという事です。僕は去年も、歩く会に参加しましたが、午前中に部活があり、下山しかしていないので楽だと思いましたが、今年は、登山、下山共にして、山登の辛さがとても分かりました。僕は、もうやりたくないと思いましたが、学生ボランティアの方との会話がとても楽しい事や、終わった後の、しんちゃん食堂の唐揚げ定食がとてもおいしかったので、またやってもいいかなと、僕は唐揚げを食べながら思っていた。 (中 3 A.T)



園に向かったの帰り道。歩く道がきれいに見える。午前中にゴミを拾いながら通ったこの道を、一日を思い出しながら歩いていく。「弁当うまいと言って食べてたな」、「ケーブルカーを励みに歩いてたな」、「歩くのが遅すぎるから抱っこしたな」、「たくさんゴミを拾っていたな」、「歌を歌いながら歩いたな」、「子ども達は疲れを知らないな」、「展望台から見た景色は最高だったな」などと思い返した。みんなのいろいろな面が見えた一日。みんながんばった。ああ、夕焼けがきれいだ。 (歩く会企画者)



愛児園では、いろいろなイベントやクラブ活動があります。職員と子どもたちの感想をご覧ください。



クリスマスプレゼントのお買い物

UBSさんからいただいたプレゼント代でイーアスにプレゼントを買いに行きました。

さいしょは、いろいろなやみましたが、途中で買いたい物があつたので、買いました。色々な物の中で一番おきにいらだつたのは、「ラブ友のキャップ、ラブ友のえん筆、ラブ友の消ごむ、ラブ友のじょうぎ」です。プレゼント代で、色々な物を買って学校や三つ葉でもすごくやくだちます。プレゼント代で色々な物が買えてすごくうれしかったです。ほんとうにありがとうございました。

またこんどのクリスマスのときもぜひ、お願いします。 (小4 K.S)



■特別外出 (水戸方面 ; H21.1.4) スケート

みんなでスケートにいったよ。ずっととってもたのしみにしていたよ。おおきなこおりをみて、とてもビックリしたよ。さいしょはちょっとこわかったけど、おねえさんたちといっしょにすべってどんどんできるようになったよ。すこしはころんじやったけどなかないでできたよ。

みんなのえがおがみられてうれしかったよ。またいきたいな。

(幼稚園 N.Y)

門松づくり、どんと焼き

「今年も立派ね」と近所の方が声をかけてくださった。愛児園の門松づくりは年末の恒例行事となっている。今年は大人6人で制作し、高校3年生の女の子がずっと応援してくれていた。見よう見まねで作ってはいるが、なかなか様になっていると自負している。餅つきも行われ、子どもと一緒に「来年が良い年になりますように！」と願いを込めて玄関へ飾った。

年が明け、およそ2週間が過ぎると門松もその役目を終えた。小学生や部

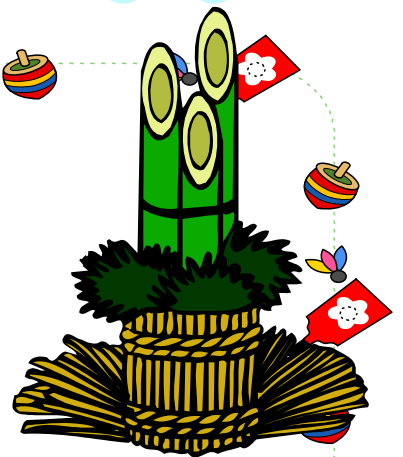
活帰りの中学生が「どんと焼き」に参加した。藁で組み立てられたどんとに火がつけられると、大きな炎が立ち上がった。火の勢いがおさまると、子ども達は長いシノの先に餅をつけて焼きにいった。どんとの火で焼いた餅を食べると、その年の病を除くと言われている。

門松作りなどの日本の伝統的行事も子ども達に伝えていきたい。みんなが健康に過ごせるように願いを込めて。

(自立支援指導員 鈴木隆文)



写真 ; イメージ



■餅つき・門松づくり (H20.12.28)
たのしかったもちつき大会

12月にもちつき大会をしました。おもちをはじめてつきました。きねはおもくてたいへんでした。大きい人たちがおもちをついていました。とてもうまいと思いました。ぼくも大きい人たちのようにうまくなりたいです。

そのあとみんなですいたおもちを食べました。あんこのおもちときなこのおもちを食べました。とてもやわらかくてすごくおいしかったです。だけど大こんのおもちとなっ豆のおもちはちょっとにがてなので食べませんでした。こんどもちつき大会でもがんばっておもちついて、おいしいおもちをたくさん食べたいです。

(小3 A.K)



サッカークラブ合宿
新潟県湯沢町にて



練習後のお弁当

サッカークラブ ～江戸っ子杯に向けて～

毎週日曜日の13時～15時、田水山小学校グラウンドでサッカークラブは活動しています。3月7日に江戸っ子杯（東京都の施設のサッカー大会）があり、それに向けて一丸となって練習しています。

11月1～3日、新潟県湯沢町ルーデンスホテル様のご厚意で、サッカークラブ合宿を行いました。朝はホテルの隣のグレンデで坂道ダッシュなどをして体力づくりを行い、日中は広いグラウンドでカー杯練習することができました。広いお風呂で汗を流し、夕食に蟹が出てきて子ども達は大喜びでした。

2月にもサッカークラブの強化練習を予定しています。技術的にはまだまだ足りないところがありますが、笑顔とチームワークを大切に大会に臨みたいと思います。「勝利」したときの子どもたちの笑顔のために職員も頑張りますので、応援をよろしくをお願いします！

(青空寮 児童指導員 中村努)

東北東に向かって恵方巻きを食べた。数え年の分だけ大豆を食べて。

「鬼は外！ 福は内！」

子ども達のかげ声と共に、豆は暗い夜空に消えていった。

三つ葉の子ども達と、節分の話をしながらの夕食。「今年は〇粒食べるんだ」とたわいのない会話がはずんでいた。

願いを込め力強く投げることを伝えると、元気なかけ声の小学生、照れくさそうに投げる中学生と反応は様々だった。

大人達の願いは、毎年「子ども達が健康で幸せでありますように」と願うのみ。今年もその願いを込めて「福は内！ 福は内！」と。

(三つ葉宿直補助 石引慶彦)



私立高校に合格した子が書いてくれました

責任

私が今住んでいる所はグループホームという一般家庭のように生活するところです。

その中でも、私が一番年上なので、つらい事や苦しい事がいっぱいあります。例えば、先生達は私が年上だからと言って私だけを叱る事があったり、私が小さい子達に注意すると「注意しなくていい。」と言い、昔は「年上なんだから注意してあげてね。」なんていう矛盾などもありました。先生達が私のために思って叱ってくれているのは分かるけど、なかなかそれを素直に受けとめることができず、毎日のように先生と戦っています。でも、こんな体験で私は見つけた事が一つあります。それは、責任の重要さです。

(中3 N.R)



調理クラブ

調理クラブは、月に1回、小学生高学年～高校生の希望者で実施しています。お菓子作りや基本的なメニューを取り入れ、楽しみながら、将来の生活に役立つことも心がけています。夏季のキャンプでオムライスを作った時には、クラブの子が中心になり、みんなに教えてあげるなど積極的な姿をみることができました。



私達は普段の生活の中で子ども達と関わることは多くはありません。このようなクラブ等を通し、子ども達と直接ふれあう事はとても貴重だと思っています。この施設を出て、自立していく子たちの為にも、料理に対して少しでも多く興味を持ち、基礎的なことや技術だけでなく、大切なことを学んでいてもらいたいです。生きていくうえで食事はとても大切な事です。バランスのとれた食生活は、体や心の健康維持にも必要です。自分で食事を作る事で自信にもつながっていくと思います。そのような支援を、私達はこれからもしていきたいと思っています。

(栄養士 萩ノ谷歩美)

二年間のボランティア経験を通して



平成19年5月から、私は太陽寮で、子どもたちと一緒に遊んだり勉強をみるボランティアをしています。初めはばかりの頃は、早く子どもたちと仲良くなろうと、全力で子どもたちと接して毎回クタクタになっていました。最近は子ども達と自然体で接することができるようになりました。また、職員の方々の仕事を間近で拝見させていただき、子ども達が寝た後にいろいろなお話を聞かせていただいたりして、職員の方々のプロ意識の高さに毎回驚かされています。

私が子どもと接する仕事に就く決心をしたのは愛児園での経験からと言っても過言ではありません。こんな私を快く受け入れ色々教えてくださいと職員の方々に、一緒に楽しく遊んだり勉強したりしてくれる子ども達に心から感謝を述べたいです。

(ボランティア 阿部勝己)

【編集後記】

この1年を振り返ると、いろいろな人に支えられていることを実感します。子ども達が安全で、安心して生活できるように、教育関係をはじめ、ボランティアの皆様、また園舎改築に御協力を頂いている方々に本当に感謝申し上げます。

本年度もまとめの時期となりました。今年度の反省や課題を基に、来年度も子どものより良い支援のために、職員一同さらに邁進していきたいと思っています。

(立川弘司)